
ナツ

朝衣海美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ナツ

【Nコード】

N5355I

【作者名】

朝衣海美

【あらすじ】

精神崩壊してしまった女の子の末路。

セミがうるさい、夏の昼下がりに。

縁側では風鈴が鳴っていて、お盆の上に二つ飲み途中のグラス。その中には麦茶が入っている。ゆらゆらと揺れる風鈴を映し、風に水面を揺らされて小さく揺れる茶色の液体。

夏だ、そう感じる風景だ。

突然、バタバタと騒々しい足音が聞こえ、それは縁側から畳の部屋へと入っていった。カシントと音がして障子が開けられた。そこには、真赤な着物を着せられて、自分を抱え、うつすら微笑んでいる少女が座っていた。

「ナツ、何てことを・・・」

入ってきた青年は、その場に崩れ落ちた。少女は、夏だということに厚い内掛けを羽織り、青年の声を聞くと顔を上げ、くすくすと笑いだした。思わずぞっとするような笑顔で、楽しそうに笑っている。

「ナツ・・・おじさんと、おばさんを・・・」

少女の左手の薬指には、青く光る銀色の指輪があった。そして、青年の手にも。二人は婚約者だった。青年の足音に、静まっていたセミが再びうるさく鳴き始める。

「どうして・・・もうすぐ結婚だって決まっていたのに・・・なんでだっ！ナツっ！」

少女の肩を指が白くなるほど強くつかんで、問い詰める。少女はまだ笑っている。

「セイちゃん、おじちゃんとおばちゃんはね、ナツが嫌いなもの。ずっと前から嫌いなもの」

言いながらなおもくすくすと笑いながら、ナツは魂の抜けた二つの固体を見た。一つを指差して、青年を見る。

「コレはね、おじちゃんの抜け殻。ナツに、ずっと痛いことしてたの」

そしてもう一つを指差して、

「コレはね、おばちゃんの抜け殻。ナツがおじちゃんが痛いことするって言っても、おじちゃんを怒らないで、ナツを怒ったの」

指差していた手をパタツと力なく下ろすと、ナツはまた笑った。

「だからナツもおじちゃんとおばちゃんを怒ったの」

ナツがおじさんから性的な悪戯を受けていたことを、青年は知っていた。知っていて、助ける方法が結婚してこの家を離れることだと思っていた。だけど、それは遅かったのだ。ナツがこの家に預けられて、すでに15年。

青年はナツを抱きしめた。泣きながら抱きしめた。

「ごめん、ナツ・・・ごめん・・・」

抱きしめる青年の肩越しに、ナツは揺れる風鈴を見ていた。美しい音を奏でて、ゆっくりと揺れる風鈴。ナツは、自由になったことへの喜びからか、微笑んだ。

「セイちゃん、バイバイ」

小さく言ったナツの声が青年の耳に届くことはなかった。青年は嗚咽を漏らし、泣いていた。ナツはゆっくり目を閉じる。その目が永遠に開くことは、なかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5355i/>

ナツ

2011年1月27日05時48分発行